

令和4年9月5日  
世田谷保健所健康推進課

思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発専門部会  
中間報告について

## 1 主旨

令和4年4月、思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツにかかる周知啓発のあり方について検討することを目的として、世田谷区健康づくり推進委員会のもとに「思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発専門部会（以下「専門部会」という）」を設置した（委員名簿は別紙のとおり）。第2回までの専門部会における議論を踏まえ、思春期世代の現状と、思春期世代に向けた取組みの基本的な方向性を中心とした中間報告を取りまとめたので、報告する。

今回の中間報告や今後の専門部会における議論などを踏まえ、今後、区として具体的な周知啓発の取組みを検討する。

## 2 主な検討項目

- (1) 第1回 専門部会 令和4年5月31日開催
  - ・区で取り組む意義と必要性
  - ・主に中学生を対象とすることについて
  - ・中学生において大切にす視点
  - ・養護教諭へのアンケート調査、若者及び中学生保護者へのワークショップに向けての意見
- (2) 第2回 専門部会 令和4年7月12日開催
  - ・思春期世代の現状（養護教諭へのアンケート調査結果等により共有）
  - ・思春期世代が必要とする情報（項目・要点）
- (3) ワークショップ(思春期世代の若者と中学生の保護者) 令和4年8月8日開催

## 3 中間報告の内容

別添「思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発専門部会 中間報告」

## 4 今後のスケジュール（予定）

|           |  |
|-----------|--|
| 令和4年10月下旬 | 第3回専門部会(思春期世代への効果的な啓発のあり方)   |
| 12月上旬     | 第4回専門部会(具体的な情報提供の内容と進め方)<br>健康づくり推進委員会(第3・4回専門部会検討報告)                    |
| 令和5年1月    | 第5回専門部会(健康づくり推進委員会情報提供(案)、最終報告(案))<br>健康づくり推進委員会(専門部会検討の情報提供(案)、最終報告(案)) |
| 2月        | 福祉保健常任委員会報告(最終報告、啓発物)  |
| 3月～       | 思春期世代に向けた情報提供の試行と実践  |
| 5月～       | 第6回、第7回専門部会(取組み状況の報告、見直しの方向性の検討)<br>健康づくり推進委員会                           |

思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発専門部会  
委員名簿

(敬称略) ※部会長 令和4年7月12日現在

| No. | 所属                                 | 氏名      | 備考   |
|-----|------------------------------------|---------|--|
| 1   | 東都大学沼津ヒューマンケア学部教授                  | 松田 正己 ※ | 健康づくり推進委員会委員                               |
| 2   | 国立成育医療研究センター<br>(周産期・母性診療センター母性内科) | 荒田 尚子   | プレコンセプションケア                                |
| 3   | 明治学院大学社会学部教授                       | 加藤 秀一   | 男女共同参画・多文化共生推進審議会                          |
| 4   | 三軒茶屋メリーレディースクリニック                  | 長岡 理明   | 世田谷区医師会推薦                                  |
| 5   | みくりキッズくりにつく                        | 本田 真美   | 玉川医師会推薦                                    |
| 6   | 東京都助産師会世田谷目黒地区分会                   | 岩佐 寛子   | 助産師会代表                                     |
| 7   | NPO法人ピルコン                          | 染矢 明日香  |  |
| 8   | 東京都立中部総合精神保健福祉センター                 | 菅原 誠    | 健康づくり推進委員会委員、<br>子ども若者協議会思春期青年<br>期精神保健部会員 |
| 9   | 世田谷区立中学校PTA連合協議会                   | 栄 裕美    | 健康づくり推進委員会委員<br>※令和4年6月より就任                |
| 10  | 世田谷区中学校研究会 学校保健部長                  | 加藤 ユカ   | 中学校長会 代表<br>弦巻中学校校長                        |
| 11  | 世田谷保健所長                            | 向山 晴子   |  |
| 12  | 世田谷保健所 副所長                         | 松本 幸夫   |  |
| 13  | 生活文化政策部 人権・男女共同参画課長                | 生垣 明    |  |
| 14  | 子ども・若者部 児童課長                       | 須田 健志   |  |
| 15  | 世田谷保健所 感染症対策課長                     | 高橋 千香   |  |
| 16  | 教育委員会事務局副参事                        | 井元 章二   | (学校経営・教育支援担当)                              |

思春期世代に向けた  
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ  
周知啓発専門部会  
中間報告

令和4年9月

世田谷保健所 健康推進課

# 思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス／ライツ 周知啓発専門部会 中間報告 構成

|          |   |
|----------|---|
| <b>1</b> | <b>検討にあたって</b>                              |
|          | 検討の目的と検討体制、区の計画上の位置づけ                       |
| <b>2</b> | <b>思春期世代へのリプロダクティブ・ヘルス／ライツ 取組みの現状</b>       |
|          | 国・都・区の動向と取組み、国際的セクシュアリティ教育ガイダンス             |
| <b>3</b> | <b>思春期世代の現状とニーズ</b>                         |
|          | (1) 区の現状 (2) ころとからだのアンケート調査 (令和2年9月実施)      |
|          | (3) 中学生の現状理解のための調査／養護教諭へのアンケート調査 (令和4年6月実施) |
|          | (4) 思春期世代や保護者のニーズ (ワークショップ／令和4年8月実施)        |
| <b>4</b> | <b>基本的な方向性</b>                              |
|          | (1) 区で取り組む意義と必要性 (2) 対象 (3) 子ども達の行動目標 (仮)   |
|          | (4) 主な意見 ～第1回、第2回 専門部会の議論より                 |
|          | (5) 思春期世代が必要とする情報 ～項目・要点など                  |

# 1 検討にあたって (1) 検討の目的 (2) 検討体制

## 検討の目的

- ・ 思春期世代が自分のからだや性の悩みを抱え込むことなく、性と生殖に関する健康や権利について正しい知識を持ち、自身の生涯にわたる心身の健康を意識することが重要である。
- ・ 区は、思春期世代が心身の健康についての正しい知識等を身につけられるよう正確な情報や安心な情報入手先を案内し、効果的な周知啓発に取り組む必要がある。

## 検討体制

世田谷区健康づくり推進委員会のもとに専門部会を設置し、思春期世代に向けた周知啓発のあり方について専門的な見地から検討する。

# 1 検討にあたって（3）区の計画上の位置づけ

## 区の計画上の位置づけ

| 内 容                             | 計 画                    | 計画期間(年度)           |
|---------------------------------|------------------------|--------------------|
| 思春期世代が自分のからだや健康を大切に<br>思う気持ちを育む | 健康せたがや<br>プラン<br>(第二次) | 平成24年<br>～<br>令和5年 |
| 健康に関する正しい知識を習得する機会の<br>提供       |                        |                    |
| 性差に応じたところと身体健康支援                | 第二次男女<br>共同参画<br>プラン   | 平成29年<br>～<br>令和8年 |
| 性の多様性の理解を含む道徳教育・人権教育<br>の充実     | 第2次<br>世田谷区教育<br>ビジョン  | 平成26年<br>～<br>令和5年 |

## 2 思春期世代へのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ 取組みの現状 (1) 国・都の動向と取組み①

### 1 保健分野

- ・ 成育基本法(令和元年12月施行)、成育医療等基本方針(令和3年2月閣議決定)
- ・ 成育家庭に対し心身の健康等に関する教育、普及啓発、必要な施策を講ずるよう示す。
- ・ プレコンセプションケア (※) に関する体制整備
- ・ 厚生労働省：プレコンセプションケアの体制整備に向けた手引書発行  
若者の性や妊娠などの健康相談支援サイト「スマート保健相談室」開設
- ・ 東京都：妊娠の不安に対するチャットボットLINE「妊娠したかも相談@東京」開設

※プレコンセプションケア

：女性やカップルを対象として将来の妊娠のための健康管理を促す取組み。

## 2 思春期世代へのリプロダクティブ・ヘルス／ライツ 取組みの現状 (1) 国・都の動向と取組み ②

### 2 人権分野

- ・ 男女共同参画社会基本法、男女共同参画基本計画(令和2年12月閣議決定)
- ・ 生涯を通じた女性の健康支援としてリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する意識の浸透を掲げる（学校での性教育や性に関する学習会の充実等）
- ・ 内閣府男女共同参画局：民法の成年年齢引き下げ(20歳→18歳。令和4年4月施行)に伴い、性暴力被害予防月間を設け、若年層に向けた集中的な広報・啓発

### 3 教育分野

- ・ 文部科学省：学習指導要領に基づき、体育科、保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて学校における性に関する指導子どもたちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、「生命(いのち)の安全教育」の推進、指導の手引きの作成
- ・ 一部の学校で安全教育推進事業(令和3～5年度)開始



## 2 思春期世代へのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ 取組みの現状 (2) 区取組み

- ・ 「いのちと性の健康教育」 性感染症予防教育として、世田谷保健所から助産師会に委託して実施 (希望する中学校)
- ・ 思春期の健康づくりへの取組み  
学校や保護者等の地域からの依頼に対し、保健師等の専門職が健康教育を実施
- ・ 男女共同参画センターらぶらすの講座 (出前を含む)、居場所事業等  
リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点を踏まえた身体的性差への理解促進・健康支援を実施
- ・ 学習指導要領に即し、保健の授業において性教育を適正に実施
- ・ 性教育の手引きに即して「生命の安全教育教材」を活用した指導
- ・ 都産婦人科医派遣事業「性教育の授業」を希望する中学校で実施

## 2 思春期世代へのリプロダクティブ・ヘルス／ライツ 取組みの現状 (3) 国際セクシュアリティ教育ガイダンス

国連教育科学文化機関（UNESCO）、国連児童基金（UNICEF）、世界保健機関（WHO）などの国際機関が協同し、世界の国々の専門家と実践をふまえ2009年に発表、2018年に改定された国際的な性教育の指針。年齢に応じた学習目標を定めている。



International technical guidance on sexuality education  
An evidence-informed approach (revised edition)

朝倉書店

- ・ 質の高い包括的なセクシュアリティ教育を提唱
- ・ 健康と福祉を促進し、人権とジェンダー平等を尊重し、子どもや若者が健康で安全で生産的な生活を送ることができるようにすることを目的。
- ・ 人権を基盤に、性についてポジティブなイメージを育てて欲しいという考え方

### 3 思春期世代の現状とニーズ (1) 区の現状

- 区では、10代の望まない妊娠は減少傾向ではあるが、依然として複数例存在している。
- 若者世代における梅毒等の性感染症の増大も課題となっている。  
(東京都 10代の梅毒報告数 R2年度 27件 → R3年度 63件)
- 区では、高齢出産が多く（国30.7歳 都32.2歳 区33.0歳 H30年）、特定不妊治療の申請数も多い（R2年度 1,455件、R3年度 1,924件）  
妊娠・出産の適齢期を踏まえた上で、将来のライフプランを適切に選択できるための正しい知識を得る機会が少ない。

### 3 思春期世代の現状とニーズ（2）こころとからだのアンケート

#### 「世田谷区における思春期世代等に対するこころとからだのアンケート調査」

時期：令和2年9月実施／3年3月報告書発行

対象：15歳～29歳（以下は、15～19歳の調査結果）

- ・ 思春期世代においては、性感染症等の知識不足がみられる。
- ・ 性感染症や妊娠等について知る方法は、「インターネットで調べる」が約9割と最も高く、次いで「友達に聞く」が2割台である。
- ・ 多くの知識が、誤った情報も含んだインターネットによるものとも考えられる。

※ 世田谷区ホームページに掲載

「世田谷区民の健康づくりに関する調査」および「世田谷区における思春期世代等に対するこころとからだのアンケート調査」の結果について（令和2年度実施） ページ番号 190540

### 3 思春期世代の現状とニーズ（3）中学生の現状理解のための調査

#### 中学校養護教諭へのアンケート調査（令和4年6月実施）

参考資料1  
参照

対象：区立中学校29校の養護教諭

##### ①生徒からの相談

「思春期のからだについて」が最も多く、次いで「性自認」「自傷行為」「思春期のころ」が続いた。かなり個別性の高い相談を受けている学校もあった。

##### ②生徒からの相談への対応

保健室での個別相談が主であり、学校によって外部講師による講義の時間を設けている場合もあった。

##### ③「性教育やいのちの授業」について

各校で差があるという意見もあり、実施した学校からは、予算や人材確保に関する負担や授業手続きに関する困難さの指摘、「行政にフォローしてほしい」という意見が多数あった。予算や時間等の制約により、「伝えることに困難を感じる」という意見が複数の学校からあった。

### 3 思春期世代の現状とニーズ（4）思春期世代、保護者のニーズ

#### 思春期世代や保護者のニーズ～ワークショップを通して（令和4年8月8日実施）

参考資料2  
参照

##### 実施概要

##### 1. 対象および参加人数

- ・ 思春期世代(16歳～23歳) 7名
- ・ 保護者(小学校高学年～高校生の子を持つ保護者) 6名

##### 2. テーマ

- ・ 「思春期世代にどう伝える？性のモヤモヤ課題解決ワークショップ」
- ・ 思春期世代および保護者が必要とする内容
- ・ 中学生に届く効果的な周知啓発の方法

# ワークショップ結果① ～グラフィックレコード 若者世代の部

18～23歳の皆さんへ あなたの声を聴かせてください！ 性のモヤモヤ課題解決ワークショップ@世田谷区

## 中学生にある性の悩みとその背景にあるもの

なぜ悩みが生まれてしまうの？

- 相談相手がいない 誰に...?
- 親にも聞きたい... 産婦人科行きづらい
- 性教育を教わるのがない
- そのまま、大学生・社会人になって恋愛デビューする時困る!!
- 正しい情報が分からない
- ネットコミュニケーション (SNS)
- 周りの比較
- 性的指向・性自認
- 月経のトラブル・正しい知識
- 病院に行くタイミング
- 小学校から段階的に性教育
- 自分をみつめる時間
- 正しく分かりやすい情報発信 動画
- 講演会で経験 身近に!
- 自分のモヤモヤを話し合う場
- ほいめと会う人がうらやま!
- 色々な体型の人をモデルに!

性的タグ-視

- ポジティブイメージがない
- 悩んでいるのは自分だけ...?
- バカにされるおもしろおかしく
- 話しちゃいけないかんじ...?
- ストレス
- ウワサ

# ワークショップ結果② ～グラフィックレコード 保護者の部

## 思春期世代にどう伝える？ 性のモヤモヤ課題解決ワークショップ @世田谷区

### 家庭での性教育で してきたこと・感じた課題

Q1. 家庭での性教育でしてきたことは？

- 生理の時具合が悪いと伝える
- 体験を伝える (深くない程度)
- ウェブサイトの紹介
- 小学校(低)人が産まれる仕組み
- 本(レベルに合わせて)
- 水着の中にかくれるときは大切に!
- 特になし

Q2. 家庭での性教育で感じる課題は？

- 下初との境界線
- オープンにするレベル
- どいまで話していいか?
- タイミングの促し方が無...
- ICT機器の関わりで勝手に触れてしまう時代
- どこまで知っているのかわからない?
- 具体的なシーンでの関わり
- 家庭だけで教える限界
- 親も知らない...

### 自分たちはどんなことをしているの？ どんなサポートがあれば？

自分たちは

オープンに話せる関係性



最低限の知識を伝える



親も学び  
周囲に伝える

ex. 家族教育・研修も

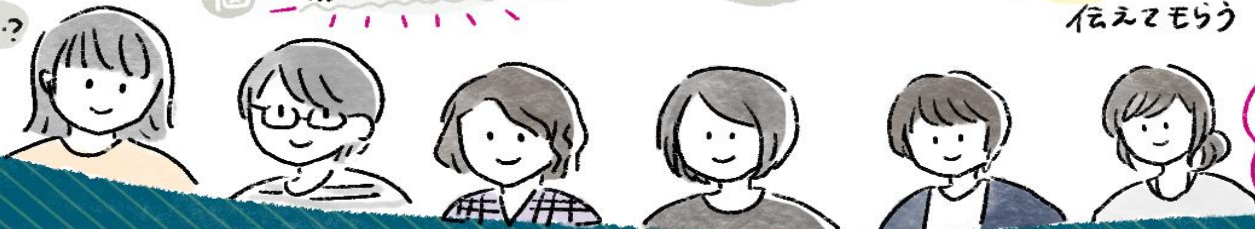
どんなサポートがあれば？

世田谷区に先例自治体になってほしい!

- 学校などでピロクセンなど第三者の方から伝えもらう
- 先生方の性を肯定的に促す意識・空気感
- 男親に大切なことも伝えてもらう
- 学校内に相談できる居場所・環境
- 手に取りやすい本・サイトの紹介
- ex. 保健室

家庭だけでなく身近な学校・地域全体で伝えていく包括的性教育を

当たり前





## 4 基本的な方向性（1）区で取り組む意義と必要性

- ・ 思春期世代が、性に関わる重大な事態を予防し、インターネット等により偏った情報に左右されることなく正しい知識や安全な相談先を知ること、適切な行動がとれるようにする必要がある。
- ・ 将来の生き方に大きく関わる、妊娠・出産・子育て等の出来事について、自分らしい選択ができるために、思春期世代が自身の生涯にわたる心身の健康を意識し、行動できる必要がある。

## 4 基本的な方向性 (2) 対象 (3) 行動目標

**対象**：思春期世代まずは中学生を対象

### 子どもたちの行動目標 (仮)

- ① からだやところや性の健康に関心を持ち、正しい知識を得る方法を知っている。
- ② からだやところや性の健康と権利を大切にし、健康や安全につながる行動がとれる。
- ③ からだやところや性について、悩んだり困ったりした時に、安全なところへ相談することができる。

## 4 基本的な方向性（4）主な意見①

参考資料  
3・4 参照

### 第1回、第2回 専門部会の議論より

#### ～子ども達の行動目標 主に①関連

「からだやこころや性の健康に関心を持ち、正しい知識を得る方法を知っている。」

- ・ 命の誕生、自分達が大切なものとして生まれてきたことの意義を知ることが大事。
- ・ 男女がお互いのことを知る必要がある。自分と同時に相手の心身を大切にしようというのがリプロダクティブ・ヘルス/ライツの理念。
- ・ 女性の月経だけではなく、男性の性の悩みもとり上げる。
- ・ 健康的な人間関係、自分や相手との向き合い方を考える、性だけを切り離して論じるのではなく恋愛と性を繋げて考えることが大事。

## 4 基本的な方向性（4）主な意見②

参考資料  
3・4参照

### 第1回、第2回 専門部会の議論より

#### ～子ども達の行動目標 主に②関連

「からだやこころや性の健康と権利を大切にし、健康や安全につながる行動がとれる。」

- ・生徒の関心事はもっぱら性行為そのものの成り立ち等であるが、それに先立つ基礎の部分をしっかり教えていく必要がある。性的同意の大切さを知ることや、性被害防止、性感染症予防にも繋がる。
- ・性被害防止は大切だが、「性被害を恐れて避けましょう」というネガティブな言い方だけではなく「性的同意を尊重しましょう」というポジティブな言い方でのアプローチも大事。
- ・若い人の性行動いわゆる「パパ活」等により、生きづらさ、承認欲求を満たしている人もいることを認識する必要がある。
- ・「産む」選択肢も「産まない」選択肢も両方尊重されるべき。

## 4 基本的な方向性（4）主な意見③

参考資料  
3・4 参照

### 第1回、第2回 専門部会の議論より

#### ～子ども達の行動目標 主に③関連

「からだやこころや性について、悩んだり困ったりした時に、安全なところへ相談することができる。」

- ・ SNSを含めた情報の正しい取り方を伝え、今すぐ必要でなくても、思春期以降も使えるような何らかの情報を渡すことも必要。
- ・ 保護者の世代としてアプローチしやすいよう、親としてどう伝えたらいいか、親子で話すきっかけなどを紹介していく必要がある。
- ・ 身近で、安心と相談に繋がるようなポジティブなアプローチ、相談しやすい環境づくりが重要。相談の受け皿整備と同時に、相談にあたる側のサポートも考えていく必要がある。
- ・ HPVワクチン接種年齢と重なるため、性感染症予防等含め、教育や地域のクリニックと連携した対応もできることが望ましい。
- ・ 妊娠したが中絶可能な時期を知らず、いざ産んだら育てられないというケースがあり、里親等の制度があることも教える必要がある。

## 4 基本的な方向性 (5) 思春期世代が必要とする情報 (項目・要点)

- ① 思春期の成長と悩み
- ② 健康なからだとこころづくり(飲酒・摂食障害・薬物乱用含む)
- ③ 妊娠・出産の基本的知識
- ④ 予期せぬ妊娠、子どもを持つこと
- ⑤ 恋愛と性的同意、性感染症予防
- ⑥ 性自認、性の多様性、多様な家族
- ⑦ 性情報との関わり方、安全な情報源と相談先

## 思春期世代に向けた中学生の現状理解のための調査（養護教諭へのアンケート）

参考資料1

## 集計結果

29校中28校から回答（回答率97%）

※内1校は欠員のため回答なし。

令和4年6月実施

## 1 生徒から性に関する相談を受けたことがありますか？

|       |    |      |
|-------|----|------|
| ・ はい  | 20 | 71 % |
| ・ いいえ | 8  | 29 % |

## 2 それはどんな相談ですか（複数回答可）

|                          |    |
|--------------------------|----|
| ・ 思春期のからだについて（月経含む）      | 13 |
| ・ 性自認について                | 10 |
| ・ 自傷行為                   | 9  |
| ・ 思春期のころについて             | 7  |
| ・ 性行為について（自慰行為を含む）       | 4  |
| ・ 摂食障害                   | 4  |
| ・ 市販薬の過剰摂取               | 2  |
| ・ 避妊方法や中絶                | 1  |
| ・ 性感染症について               | 1  |
| ・ 性暴力、性被害について            | 0  |
| ・ 妊娠と出産について              | 0  |
| ・ 性的同意                   | 0  |
| ・ 飲酒について                 | 0  |
| ・ そのほか(ジェンダー関連、男女交際について) | 2  |

## 3 これまでに生徒から、妊娠への不安など性に関する緊急的な助言を求められたことがありますか？

|       |    |
|-------|----|
| ・ はい  | 5  |
| ・ いいえ | 23 |

## 4 3で「はい」と答えた先生に伺います。

## 1) 差し支えない範囲で具体的内容をお答えください

- ・ 中2女子より、性行為を同じ学校の同級生に迫られ妊娠したかもしれないと相談を受けた。
- ・ 妊娠したかも…生理がこないetc.
- ・ 性交時の避妊の不安
- ・ 性感染症
- ・ 自慰行為について

## 2) 助言を求められた生徒のうち、知的障害・肢体不自由、自閉症、情緒障害、難聴の生徒はいましたか？

|       |   |            |
|-------|---|------------|
| ・ はい  | 1 | （知的障害・自閉症） |
| ・ いいえ | 4 |            |

## 5 生徒たちが、性と生殖に関する適切な情報源と相談をうけられる場所を知っていると感じますか。

|       |    |
|-------|----|
| ・ はい  | 2  |
| ・ いいえ | 24 |
| ・ 未回答 | 2  |

## 6 相談先や正しい情報を得られる情報源等を生徒に紹介したことはありますか。

|       |              |       |                 |
|-------|--------------|-------|-----------------|
|       |              | ・ はい  | 12              |
|       |              | ・ いいえ | 12              |
|       |              | ・ 未回答 | 4               |
| (紹介先) | ・ 本          | 2     | ・ HP・ブログ        |
|       | ・ 産婦人科       | 2     | ・ LGBTQ支援団体のサイト |
|       | ・ 保健所        |       | ・ 中学生向け冊子       |
|       | ・ 助産師        |       | ・ こども110番       |
|       | ・ スクールカウンセラー |       |                 |

## 7 以下にあげるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する知識で、中学生に一番不足していると思われることは何ですか。(回答はひとつ)

|                          |    |
|--------------------------|----|
| ・ 月経時の鎮痛剤やピル等との付き合い方と副作用 | 15 |
| ・ 性暴力・性的同意               | 4  |
| ・ 妊娠と出産について              | 3  |
| ・ 避妊方法や中絶                | 3  |
| ・ 性自認について                | 1  |
| ・ 性感染症                   | 0  |
| ・ 女性に多い病気の仕組みや予防         | 0  |
| ・ そのほか                   | 2  |

計 28

## 8 以下にあげるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する知識で、中学生に対して伝える機会を持っている内容がありますか。(複数回答可)

|                          |    |
|--------------------------|----|
| ・ 月経時の鎮痛剤やピル等との付き合い方と副作用 | 11 |
| ・ 妊娠と出産について              | 9  |
| ・ 性感染症                   | 8  |
| ・ 女性に多い病気の仕組みや予防         | 6  |
| ・ 性暴力・性的同意               | 4  |
| ・ 性自認について                | 4  |
| ・ 避妊方法や中絶                | 3  |
| ・ そのほか                   | 0  |
| ・ 伝える機会を持っていない           | 11 |

## 9 上記で「伝える機会を持っていない」以外を選択した方に伺います。

それは、どのような場面で伝えていきますか。差し支えない範囲で具体的内容をお書きください。

&lt;個別指導&gt;

- ・ 保健室、来室時に個別保健指導を行う 2
- ・ 生理痛を訴えてきたときなど、個別指導
- ・ 個別対応での保健指導
- ・ 月経困難で保健室に来た訴えのある生徒に対して、個別に伝える



## &lt;外部講師等&gt;

- ・ 保健体育の授業、外部講師（助産師）によるいのちの授業（毎年はできていないのが課題）
- ・ 外部指導の先生をおよびしている
- ・ 助産師（2年）や産婦人科の医師（3年）を講師とした性教育の授業
- ・ 3月に2，3年生を対象に命の授業、助産師講演会を行っている

## &lt;そのほか&gt;

- ・ 個別保健指導、特別活動時の保健授業等
- ・ 保健室の本
- ・ 3年生の卒業前、特別講話にて（1コマ50分）
- ・ 保健体育の授業

## 10 中学生に対して、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する知識※について伝えるとき困難であると感じるのは、どんなときですか。差し支えなければお聞きください。

※リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する知識として、設問8の選択項目を参考にしてください。

- ・ 成長の個人差が大きい。ネットでいつでもだれでもいろんな情報が手に入り、子どもたちがどれくらいの知識があるのか、把握できない。また持っている知識が正しい知識かどうか、わからない。
- ・ 性教育のプログラムを構築しさえすれば困難ではない
- ・ どの項目もセンシティブなので言葉えらびが難しい。全体指導よりも個別指導になりがち
- ・ 交際（性的関係含む）について、発達段階を踏まえながら、正しい知識を伝えること。
- ・ 学習指導要領や教科書の内容以上のことを伝える必要性を感じた時に何を教材とするのか、誰が教えるのか、どこまでの内容を取り扱うのかが非常に難しく、学校内でなかなか取り扱えないのが現状。
- ・ 管理職に理解がない場合や、寝た子は起こすなという考え方の教職員がいる場合自分の知識が最新であるかどうか
- ・ 一斉指導においては、学習指導要領の範囲の内容についてしか伝えることができないこと
- ・ 学習指導要領の内容を超えた性教育を行うことが基本的に許されないことがある  
予算や時間の制約で専門の講師をよべる学校ばかりでないこと
- ・ 保健指導の時間があっても別の課題に目が向き、性に関することは後回しになっている  
集団相手だと差が大きく、何をどの程度と決めにくい
- ・ タイミング、時間確保
- ・ 保健体育等で学習する内容以外では、時間の確保が難しい。誰がいつ教えるのか。
- ・ 性自認
- ・ 妊娠出産等、性に関することは、キャリアデザインとも関連しつながっていると思う。男女が共育していくものだが、まだ性差を大きく感じている。指導者からの啓発が必要
- ・ 妊娠、出産については、保健体育でも入れられるが、人権問題としての性の自認、性暴力などを外部から派遣でのお話がしてもらえるとよい。授業時間にコンパクトに入れられる準備ができているプロに頼みたい。
- ・ 相談に来た生徒への個別対応はできるが、全体へ伝える機会を作るのが難しい
- ・ 七尾養護学校事件、足立第八中学校事件のように、性に関する指導について教職員の立場が守られるのか、を考えると内容の選択肢について不安や困難を感じます。

(補足)

七尾養護学校事件は、日野市にある都立七尾養護学校で知的障害をもつ児童に対して行われていた性教育の授業が不適切であるとの非難を受け、東京都教育委員会が当時の校長および教職員に対し厳重注意処分をおこなった事件。

また、2018年、足立区内の中学校で3年生に行われた授業めぐり、都議が都議会で教員らを名指して「不適切な性教育」を批判した事例がある。

## 11 リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する周知啓発※について、地域と連携して取り組めば効果的であると考えられるような連携先はありますか。

※リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する周知啓発の内容の例示として、設問8の選択項目を参考にしてください

|       |    |                |   |
|-------|----|----------------|---|
| ・ はい  | 6  | <具体的な連携先>      |   |
|       |    | ・ 産婦人科の医師      | 3 |
|       |    | ・ 助産師（東京都助産師会） | 3 |
|       |    | ・ 世田谷保健所       | 2 |
|       |    | ・ 学校医師会        | 1 |
| ・ いいえ | 15 |                |   |
| ・ 未回答 | 7  |                |   |

## 12 その他ご意見がありましたら、自由にご記入ください。

- ・ 区内保健師さんと具体的な打ち合わせをした上で毎年学年に応じて指導時間をもてるようになるとよい。”都”に申し込みをすると手続きが複雑なので身近なところで“教員にできないところ”をフォローしてもらえるとありがたい。
- ・ 性教育、いのちの授業についてはどの程度行っているのか各校でかなり差があると思う。本当にそれでいいのか疑問です。学校ごとにではなく、区内の小中で外部講師による性教育、いのちの教育を必ず実践するという風にしていただきたい。（区で予算や人材の確保をしてほしい）学校ごとに予算を組み、人材を探し…だととても負担は大きい。（現在区内中学校数校は、保健所に申し込みをし、助産師によるいのちの授業を実施しているが、全校分の予算がないため新規校が優先等の課題がある）
- ・ とても大切な内容で伝える機会を設ける必要性を感じます。  
講師の先生等が中学生に講演に来たりするような企画があるとありがたいと思う。
- ・ リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する周知啓発は、高校生になってからでは遅すぎる。中学生の段階で、専門の講師を呼び指導できる体制を予算や依頼する講師のあっせんまで行政が行い、すべての中学校で実施できるようにすべきだと考えます。
- ・ 学習指導要領に記載されていない内容の学習では、教員や保護者等に必要性を伝えて、時間の確保と準備等、行う手順がたくさんあって、なかなか取り組むことが難しいと思います。
- ・ 本人からの直接の意思表示（言葉で）はないが、性別欄に○をつけない生徒がいる。この生徒に、積極的に関わるべきかどうか、悩んでいる。  
キャリア教育のなかに、妊娠や出産をどう考えていくか（パートナーも含め）入れてほしいと思います。  
社会全体で支える仕組みができ、個人の問題にしないことが大事かとも
- ・ 性教育に関して地域周辺で連携できるところを探しています。

思春期世代にむけたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発  
ワークショップ実施概要

参考資料 2

令和4年8月8日に、下記のとおり、ワークショップを開催した。

1. ワークショップのテーマと目的

「思春期世代にどう伝える？性のモヤモヤ課題解決ワークショップ」をテーマに、ワークショップを行い、結論として、以下の視点について意見を抽出し、普及啓発の実践に反映する。

視点：思春期世代および保護者が必要とする内容、中学生に届く効果的な周知啓発の方法

2. 対象

- (1) 思春期世代(16歳～23歳) ※自分達の中学生時代を振り返り意見を出してもらう
- (2) 保護者(小学校高学年から高校生の子を持つ保護者)

3. 開催時期及び場所

開催日時：令和4年8月8日(月) ①思春期世代 14時～16時 ②保護者 10時～12時

会場：世田谷区教育総合センター研修室3

4. 参加人数

- (1) 思春期世代 7名 男性3名、女性4名  
(年齢内訳:16歳1名、17歳2名、18歳1名、19歳2名、21歳1名)
- (2) 保護者 6名 全員母親(対象となる子の年齢内訳 小学生3名、中学生5名、高校生2名)

5. ワークショップの内容

(1) 思春期世代

| 項目              | 内容                          |
|-----------------|-----------------------------|
| ディスカッション①       | 中学生にある性の悩み・困り事とその背景を考える     |
| 性教育についてのレクチャー   | ・性教育の現状とポイント<br>・よくある思春期の悩み |
| ディスカッション②       | ・中学生の性の悩み・困り事の予防・解決を考える     |
| 性に関する情報源と相談先の共有 | ・アクセスしやすい情報源等(現状の把握)        |
| ディスカッション③       | ・信頼できる情報源と相談先を考える           |

(2) 保護者

| 項目                | 内容  |
|-------------------|---|
| ディスカッション①         | ・家庭での性教育の現状(現状の把握)<br>家庭での性教育でしてきたこと<br>家庭での性教育で感じる課題     |
| 家庭での性教育についてのレクチャー | ・性教育の現状とポイント<br>・よくある保護者の悩みと対応                            |
| ディスカッション②         | ・子どもへの性教育で困ったこと(課題の抽出)<br>⇒講師からの回答<br>・どんなサポートがあるとよいか(提案) |

6. 意見の抜粋

(1) 思春期世代

① 中学生の情報源と相談先

- ・情報源 友人(5) 親(4) 学校(3) インターネットサイト(3)
- ・相談先 親(5) 病院(5) 友人(3) きょうだい(2) インターネットサイト(2) SNS(2)

## ② 必要とする内容

- ・安全な情報源、相談先の情報
  - 「誰に相談していいかわからない。聞ける人がいない。」「親には聞きづらい、はぐらかされる。」
  - 「友人に聞いても、友人も正確な知識がないから解決にならない。」
  - 「気軽に産婦人科には行けない。」
- ・性について教わる場、話せる場
  - 「性教育を教わる機会が少なく正しい知識がない。」「月経や妊娠について教わっていないし、話しにくい。」「性について話してはいけない空気感がある。」「性についてのタブー感がなくなってほしい。」「教育の場でもワークショップなどがあるとよい。」「性的なことに対して、断り方を知らない。学校で習っていない。」「保護者への啓発もあると、家庭で話しやすい雰囲気づくりができるかもしれない。」
- ・正しい情報の選択
  - 「どの情報が正しいのか自分で判断できない。」「SNSを信じてしまう。」「高校の校則で男女交際禁止の学校も多く、卒業後に何の知識もなく交際となると、判断できない。」
- ・個別性・多様性の理解
  - 「雑誌等による画一的なボディイメージ。自分と他者を比較してしまう。」「世界の性教育や価値観を知りたい。グローバルな視点、多様な視点、今の時代に合う考え方。」

## ③ 周知啓発の方法（情報源・相談先）

- ・情報源：
  - ・学校で外部講師による講義や本等の正しい情報源。
    - 教育を通して性を学ぶ場を設け、正しい知識を持った若者を増やしてほしい。
  - ・インターネットサイト
    - 1人でみられる。人の目が気にならない。
    - 親が履歴を見た時に恥ずかしくない。フィルタリングがかからない。
    - 普及率が高い。中学生はスマホを持っている。
    - 信用できる機関（厚労省や自治体が提供するもの、安心のマークがあるとよい）
  - ・郵便DMでお知らせ
- ・相談先：
  - ・困り感により相談先が違ってくる。
  - ・SNS、チャット、LINEアカウント、病院（親と行くことになるので親の理解が必要）

## (2) 保護者

## ① 必要とする内容

## 子どもに必要な内容

- ・知識に加えて、人間関係など、話し合える場や体験の場
- ・保健室で気軽に相談できる環境、養護教諭とのつながりや居場所
- ・多様な性について、自分をみつめる時間

## 親子ともに必要な内容

- ・親子とも小学校からの段階的な性教育。
- ・月経のトラブルと対処法、低用量ピル等の具体的な知識
- ・毎年どこかで親と子への包括的セクシャリティ教育やセミナーがあるとよい。全ての中学生に伝えてほしい。

## 親に必要な内容

- ・まずは親達が勉強すること。親自身も包括的性教育を受けてこなかった。
- ・親がどう答えたらよいかの相談窓口（サイト）

## ② 周知啓発の方法

- ・性に関する正しい知識を正面から伝える内容にしてほしい。性を肯定的にとらえる意識改革。学校で性交・避妊を教えていこうという空気感。
- ・学校を通して安全なサイトの紹介等、わかりやすいポップなサイトを子どもに紹介してもらう。子どもはオンラインやチャット等のインターネットの方がハードルが下がる。大人は紙媒体が見やすい。
- ・親から言われるより先生の言うことを聞く。家庭での性教育は限界。思春期は難しい。なかなかオープンに話せない。タイミングが難しい。
- ・父親から男子に大切なことは伝えてほしい。父親教育も必要。

## 第 1 回

思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス／ライツ周知啓発専門部会における主な意見  
令和 4 年 5 月 3 1 日開催

## 1 区で取り組む意義と必要性について

- ・我が国の問題として、諸外国のプレコンセプションケアと違って、若い世代の性と生殖に関する教育、人権教育を伴った教育が、客観的に見て不足している。保健・教育・人権で取り組むことに大きな意味がある。
- ・プレコンセプションケアの本来の意味は、CONCEPTION「受胎」意味、受胎の前のヘルスケアという意味である。妊娠の前、将来の妊娠出産のために健康管理を提供することだけでなく、若い世代が健康で質の高い生活を送れること、さらに次世代の子どもたちが健康になることを目的とするため、若い世代の健康増進につながる。
- ・区としては、区特有の問題があるから取り組むのか、国の教育を補うものとして、区のレベルでも取り組むのかについて、両方であることを確認。

## 2 中学生を対象とすることについて

- ・包括的性教育というと、乳幼児期から 18 歳くらいまでのカリキュラムに基づくプランとなるが、中学生に特定した形でのアプローチとなると、包括的性教育という概念から少し離れてしまうが、まずは、中学生をターゲットにしながら、今後広げていくとか、今後他の世代への啓発も含め課題整理していくというような建付けがよい。
- ・性感染症の予防教育だと、性行為をする前の段階に介入するのが効果的であることが国内外の研究でもわかっているため、中学生を対象とする根拠となる。

## 3 中学生において大切にしている視点について

- ・リプロダクティブ・ヘルス／ライツに、飲酒、摂食および薬物乱用などについては、健康被害に関する国民への正確な情報提供に努めることを国の男女共同参画局が出している。若い人の依存や生きづらさにも着目していく必要はある。
- ・若い人の性行動いわゆるパパ活とか JK ビジネスをしている人は、自分への自傷行為の一環として売り歩いている人、生きづらさ、承認欲求を満たしている人もたくさんいる。自暴自棄になってそういう行動をとること、自傷行為のメンタリティは似ている。
- ・ユネスコが国際セクシュアリティ教育ガイダンスという性教育の指針を作っているが、その中で、ボディイメージや依存も出てくるので、非常に重要な視点と思う。日本の健やか親子 21 にも摂食障害が入っているので、現代のニーズに合うテーマだ。
- ・人権教育として、LGBT 問題を扱うのかは決めておいた方がいい。国や他の自治体と比べて踏み込んだ内容になるため、かなり色々な意見が出ることも想定され、強い覚悟を持って取り組む必要がある。
- ・世田谷区の特長として挙げた高齢出産が多いということについて、中学生の早い段階から妊娠・出産・子育てに関わる客観的な知識をきちんと教えること、自分のライフプランをしっかりと考えてやっていけるような、前提となる知識を教えるということは否定されるべきではないが、早く子どもを産まないとまずいというようなことを中学生の段階で教えて不安にさせるようなことは厳に慎むという繊細な配慮が必要。
- ・現在の学校教育で、どういった視点で、どういったアプローチが不足しているのかを調査しながら、身近で、安心と相談に繋がるようなポジティブなアプローチができるとよい。相談しやすい環境作りと相談できる受け皿として、専門職の方や相談にあたる方向けのサポートも含めて考えていけるとよい。

- ・生徒が聞きたいことは、性行為そのものの成り立ち等であるので、基礎のところをしっかりと教えていく必要がある。例えば妊娠の兆候として、妊娠と月経が結びついていない。正しい知識を中学生や小学生のうちにもって成長していくのと、持たないままで成長していくのとでは違うということを、高校で性教育をしたときにすごく感じている。
- ・自分と同時に、相手の心身を大切にしようというのがリプロダクティブ・ヘルス/ライツの中にある理念で、男子も女子の体のことを知らないといけないし、女子も男子特有のことを知らないといけない。男女分けて教育してきたのは弊害でしかなかったと思っている。
- ・小児科医として、障害のある子ども達のための性教育に対しても、取り組んでいけるといいと思っている。

#### 4 現状把握 養護教諭へのアンケート調査、若者及び中学生保護者へのワークショップについて

- ・摂食障害、市販薬依存、自傷行為、性行為について、アンケートの選択肢に含める。
- ・思春期のこころとからだは、分けたほうがよい。

※内容を反映しアンケートを実施した。

## 第 2 回

### 思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス／ライツ周知啓発専門部会における主な意見 令和 4 年 7 月 1 2 日開催

#### 1 思春期世代が必要とする情報について

第 1 回専門部会での意見をふまえ、養護教諭や思春期世代へのアンケート結果を参考に、事務局案として以下項目を示して意見を伺った。

- (1) 思春期の成長と悩み
- (2) 健康なからだところづくり(飲酒・摂食障害・薬物乱用含む)
- (3) 妊娠・出産の基本的知識、性感染症予防
- (4) 予期せぬ妊娠、子どもを持つこと
- (5) 性被害防止
- (6) 性自認、性の多様性、多様な家族

#### 2 意見交換の主な内容

大切にする視点や必要とする内容について、上記 1 の①～⑥に分けて、意見交換を行った。

##### (1) 思春期の成長と悩み

- ・女子は月経の相談がとても多く苦しんでいる。月経がこない不安や、食事との関係等、生活とつなげての相談もある。
- ・どうしても女子の悩みが主になり、男子の悩みが落ちてしまう。例えば、性欲や射精、マスターベーションとか包茎、性器の大きさ等の相談を受けることが多いので、男子向けの内容も入っているとよい。
- ・日本性教育協会の性行動の全国調査によると、中学生男子が性について知りたいことは、1 番が恋愛、2 番がセックス・性交、その次が性病であり、性についての悩みで一番多かったのはマスターベーションである。非常に具体的な悩みなので、ダイレクトにきちんと教えてあげたい。
- ・性と聞かれても、中学生にとっては、まずは恋愛について、知りたい、考えてみたいというのが、自然の受けとめ方ではないかと思う。性だけを切り離して教えるというよりは、彼らが恋愛と言葉で感じるようなことと繋げて考えてもらうことも大事だ。

##### (2) 健康なからだところづくり(飲酒・摂食障害・薬物乱用含む)

- ・養護教諭のアンケートを見ても、自傷行為や市販薬の問題が出てきている。医師も絡むような事件で 20 代の若い女性がオーバードーズで亡くなることもあり、命を大切にするということを啓発していく必要がある。
- ・自分の意思として子どもの命を守ってほしい、生命に訴える教育も必要。心という意味で強調してほしい。

##### (3) 妊娠・出産の基本的知識、性感染症予防

- ・妊娠出産の基本的知識と性感染症予防が同枠になっているが違和感がある。性感染症は性交そのものに関わることであり、性交そのものについて取り上げにくいということは承知しているが、何らかの形で、性交そのものについて真正面から取り上げて教えてほしい。それは性的同意に繋がって、性被害防止にも繋がるし、別の面では性感染症予防にも繋がるので、性交そのものを軸にして、性的同意・性感染症予防でまとめた方がいい気がする。妊娠出産の基本的知識は別に、子どもがどういうふうにできて、どういうふうに育っていくのかというの

は、それ自体として知識を持って欲しいと思う。

- ・妊娠の可能性は変化するので、やはりしっかりと妊娠出産の基本的知識を科学的な観点から教えていくことは必要。もう一つは、自分たちが非常に大切なものとして生まれてきたということもぜひ教えていくことが非常に大切。
- ・中学生は、妊娠の経過が歯止め規定により教育では取り扱えないため、高校大学生になって突然妊娠という話が出てくるが、妊娠の経過を丁寧に、決してネガティブインパクトではなくて伝えていくことが大切。特に、女子たちが母親から聞いている話というのが、妊娠出産は大変で怖いといったネガティブインパクトがすごく強いので、妊娠出産がネガティブにならないように伝えていく必要があると思う。
- ・婦人科でも、HPV ワクチン接種の際に性行為感染症の予防ができることを、きちんと説明しなければならない。
- ・思春期世代は HPV ワクチンの接種時期と重なっていった、それに絡めた性感染症予防等について、個人差もすごく大きいと思うので、教育の場だけではなく、個人に対応できる地域のクリニックと連携できるとよい。悩みだけではなくて、教育ということも含めて、個人に合った対応ができるのがよいと思う。
- ・性感染症の話で、思春期世代へのアンケートを見ても、病気になることは知っていても、症状が必ず出ると思っているとか、将来の不妊とつながっていないとか、男子と女子と、症状の現れ方の結構違うことも多いが、こんなに伝わっていない。ピルが月経痛のコントロール含めて若者にとって身近なツールになってきているが、性感染症の予防にはならない。現在、梅毒が感染爆発している実態を踏まえ、具体的な情報を提供したい。

#### (4) 予期せぬ妊娠、子どもを持つこと

- ・出産適齢期といったことをどんなふうに伝えていくか気になっているが、私の体は私のものとか、産む・産まないを自己決定する権利が自分にあるという、リプロダクティブ・ヘルス/ライツがベースにあることはとても大事である。
- ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から産む選択肢も、産まない選択肢も、両方尊重されるべき。産む選択肢をした人、産まない選択肢をした人、それぞれ、どんな人生があるのかを発信することで、子どもたちが、もし自分が直面したときに、どんな選択ができるかを検討する材料になると思う。取り上げ方によって、ポジティブ、ネガティブ両面があると思うが、できるだけリアルに、両方の面を踏まえた上で、妊娠した人が決められるように、また妊娠させる男性も、それをサポートできるような内容になればよい。
- ・いのちと性の健康教育の際に、時間がとれれば里親制度や養子縁組の話もするようになっている。妊娠したけれども中絶ができる時期を知らず、いざ産んだら育てられない・・・という悲しい事件が今たくさん起きている中で、やはり知識として持ってもらうことは大事である。

#### (5) 性被害防止

- ・性被害防止はネガティブな側からの言い方、ポジティブな側から言うと性的同意の尊重ということになる。性は怖いものになりがち、もちろんそれは事柄の半面で大事なことだが、性被害を恐れて避けましょうというだけではなくて、自分が性被害を与える可能性もあるわけで、性的同意を尊重しましょうという言い方でのアプローチも大事だと思う。
- ・自分のことは自分で守らなければならないけれど、相手のことも気遣うことが必要。女子だから男子だからというよりは、お互いにどちらのことも知っておくことが非常に大事。
- ・SNSとか性情報との関わり方というのも、性被害防止や、友達関係やお互いを尊重するおつき合いの仕方ということで入れてもよいと思う。



#### (6) 性自認、性の多様性、多様な家族

- ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツのライツのことをしっかり伝える機会が必要である。ジェンダーについて、親から子へ、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）として刷り込まれている状況があるため、教育の中で、保護者も含めて、少し意識が変わるような方向に持っていかたい。
- ・多様な家族について、リプロダクティブ・ヘルス/ライツでは同性カップルが中心になると思うが、ステップファミリーや、国際結婚とハーフの子とかミックスとか言い換える流れもあるが、そういうことまで含めたパースペクティブで教えてほしい。同性婚ということを含みつつ、それだけじゃない形で家族というものを広く捉えられるとよい。

#### (7) その他の意見

##### ◇全体を通して

- ・淡々と事実だけを述べて知識だけを提供するのではなく、それをどう自分自身が向き合うとか、どのように相手に伝えるかというスキルとか価値観、態度のところも、どのように情報を提供していくかは今後要検討だと思う。

##### ◇保護者および家庭へのアプローチ

- ・家庭では男女交際までは話せる場合もあるが、延長線上にある性行為までは踏み込めない。親としては、望まない妊娠はして欲しくないが、伝えるツールや技がない中、どう伝えればいいのかが一番困る。なにかきっかけがあると保護者世代としては取り掛かりやすいと思う。
- ・親と子どもが性について話せる年代となると小学生以下のケースが多く、思春期になると、親だからこそ話せないということも出てくる。保護者向けの情報としては、子どもが困ったときのサポートの仕方や、親以外の相談窓口があること等の情報提供の仕方や、共通の話題としてのトピックスやきっかけがあると、保護者も話してみようかなというような、あと押しになるかなと思った。
- ・生命の誕生の学習に保護者が参加することをきっかけに親子が話すことがあるときいている。いのちと性について、親子でざっくばらんに話せる環境づくりを、小さな頃からしていくことが一番大事なことだと思う。
- ・親の世代にどうメッセージを伝えるかを、今回の情報提供にどう含めていくかが、一番大きな課題になっている。

##### ◇情報提供のあり方と手法について

- ・思春期世代のリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発のためには、かなり広範囲な内容が必要で、それが全部ないと目的は達成できないということが分かってきた。思春期世代が今すぐ必要とするかはわからないが、そのときになって必要な情報はそこに書いてあるというような、思春期以降も使えるような何らかの情報が、若い頃に渡していること、そういうものが本当は必要なのではないかと感じた。
- ・情報を伝える手法として、人見知りや恥ずかしがりの子どもにとっては、1人でこっそり携帯とかパソコンで最低限の情報を得ることができれば、全員で講義を受けるよりも伝わると思う。